

十月社会主義革命一〇四周年を迎えて日本の労働者同志たちに

コロナ 19 ウイルス防疫体制の困難に遭遇しながらも、十月社会主義革命一〇四周年記念集会を開催される日本の労働者同志たちに、喜びと連帯の思い、同志愛を贈ります。一九一七年十月の最初の社会主義革命の感動を、日本の同志たちとともにする思いです。

さる十月二十日、韓国の労働者たちもコロナ防疫体制の困難ななかで民主労総ゼネスト集会を成功させました。不平等の打破と平等社会への大転換を掲げ、ソウルといろいろな地域別に多くの労働者たちが集まって団結と闘争を決議しました。集まった数も多かつたし、闘争の熱気も高かつたのですが、惜しむらくはまだその闘争の内容が、労働基本権を要求し“労働者が参加する正義ののった産業転換”を主張するものに終わっていることです。資本主義生産様式のなかにおける改良と改善を要求しつつも、企業と資本家の非良心を糾弾し国家と現政府の責任を要求して訴えるに留まっているのです。

資本主義の生産力が極度に発達し、無人自動化生産へと進んでいることを見ながら、そして労働者たちがすさまじい解雇と失業に追いやられていることを知りながら、“問題は資本主義”と叫びながらも、その根本の解決策を探し出せずにいるのです。またコロナ 19 ウイルスが、なによりも労働者・人民に苛酷な苦痛を加えていることを知ってはいるものの、その苦痛の根がコロナ 19 ウイルスではなく、資本主義生産様式の根本矛盾にあることを見ることができずにいます。

韓国の労働者運動のこのような政治的遅滞は、何よりも国家保安法というファッショ悪法によって労働者階級が革命的進出を阻止されているためであるがゆえ、わが研究所は先進的労働者たちだけではなく、民主主義を指向する市民団体とも連帯して、国家保安法廃止闘争を繰り広げています。

日本の同志たちの今回の集会を契機に、世界労連（WF TU）の歴史を振り返ってみます。最初の国際労働者組織である国際労働者協会の創立に遡ってみます。労働者階級が政治権力を闘いとして解放へと進むのは、労働者階級の義務であり、これは労働者たちが結合して団結し、科学的知識がかれらを指導する時にだけ可能だという国際労働者協会創立宣言の内容を再度想起します。

人類のあらゆる苦痛の唯一の解決策は、搾取と抑圧の体制である資本主義の廃止であることを、そしてそれを認識するようにするマルクスレーニン主義が労働者階級を導いていけるよう、ともに努力しましょう。労働者階級が社会主義革命に対する展望をふたたび探し出して握りしめられるよう、努力しましょう。とりわけ韓国と日本の労働者階級は各国の資本家階級と帝国主義に立ち向かって、さらに連帯し、ともに闘わなければならないことをもう一度誓います。

すべての人類の平和で安全で友愛に満ちた生を夢見ながら、そのために集会を準備し行事を進行

される日本の同志たちに衷心より連帯の同志愛を贈ります。

二〇二一年十月二十七日

ソウルから
労働社会科学研究所運営委員会
【翻訳＝土松克典】